

# 第1回亀山市まちづくり基本条例推進委員会議事概要

日時：平成30年11月28日（水）

10:00～

場所：本庁舎3階理事者控室

## 1. 副市長あいさつ

（要旨）

- ・まちづくり基本条例推進委員会は、まちづくり基本条例の施行以来、条例に基づくまちづくりの推進を目的に設置をしたものである。これまで委員会では、条例に沿ったまちづくりの実現に向けて、市が策定する「推進計画」に盛り込むテーマ検討や計画の検証・評価を行っていただいております。このたび、第5期目を迎えたところである。
- ・本日からは第5期目の推進委員会では、次期推進計画に盛り込むべき事項を集約していただくことが主な活動になっている。前推進委員会から引き続きご就任いただく委員の皆様には、これまでの議論も踏まえた側面から、また、新たにご参画いただく委員様におかれては、新たな視点でのご意見をいただけるものと期待している。

## 2. 委嘱状交付

各委員に対して、副市長より委嘱状の交付を行った。（その後、副市長退席）

## 3. 自己紹介

各委員より、自己紹介を行った。

## 4. 会長・副会長の選出

委員の互選により、次のとおり選出した。

（会長）岩崎恭典委員

（副会長）小河明邦委員

## 5. 推進委員会について

事務局：資料1～3、参考資料を説明

（説明要旨）

(1) まちづくり基本条例推進委員会の役割について

- ・推進計画の調査検討・評価、条例のPRや見直し

(2) 亀山市まちづくり基本条例について

- ・第1期～第4期の活動のまとめ

(3) まちづくり基本条例推進委員会の運営について

- ・会議の公開、記録、ルールなど

## 6. 意見交換

### (1) 次期推進計画の検討テーマについて

事務局：資料4を説明

(説明要旨)

検討に盛り込むべきテーマについて

委員：外国人との共生についての問題と地域の担い手をどのように見つけるか・育成するかということの2つは大きな課題であると思う。

東南アジアに旅行に行くと、「〇〇人街」という街が形成されている。関東でもそういった街が形成され、問題が出てきていると聞く。亀山でもそのような問題がいずれは出てくると思う。自治会やまちづくり協議会において、この問題について早い時期から考えたほうがよいと思う。

地域リーダーの養成については、私自身が現在、まちづくり協議会の役員をしているが、次の世代がないという問題に直面している。次の世代の役員を若いうちから確保しておかないといけない。また、高齢の方でもどんどん動く・動いてもらう体制を作らないといけないと思う。

会長：四日市市の笹川は日系ブラジル人が多く、まとまって住んでいるようである。また、近鉄の富田駅の周辺だと外国人が様々な場所に住んでいるようである。具体的にどんな風に住んでいるかはわからないが、今後、地域の担い手にどのようになっていただくかということは検討していく必要があると思う。

委員：外国人の方と自治会は直接話ができないので、外国人を雇用する企業にも話に入ってもらおう仕組みがいると思う。

会長：担い手の問題についてはどの自治体でも同じ問題を抱えている。

委員：私も非常に大変な問題であると感じている。私の所属するまちづくり協議会では、今年度から体制を大きく変えた。専門部会については、これまで事務局が指導をしながら運営していたが、新体制では事務局は指導しないこととし、部長と部員の少数精鋭で取り組んでいくこととした。今回の体制変更により、専門部部長の任期を3年、部員の任期を2年とした。部会に携わる人が一気に変わらないように工夫をした。その部会で検討された内容を自治会にも取り組んでいただいている。

会長：このような事例が他のまちづくり協議会にも共有されるといえると思うが、自治会のパワーはどうか。

委員：亀山の自治会に携わる役員の方は70歳以上の方がほとんどである。

先週、自治会連合会の全国大会に出席したが、自治会そのものやその活動が非常に大事であるとの話があった。また、地域の活力の減退が危惧されていることについても全国的に共通している部分であった。

亀山でも自治会長の成り手がおらず苦慮している。私が自治会連合会の役員になったときは、他の地域の役員も8年くらい変わらなかった。昨今は70歳となれども、全員現役であるため、支部長、自治会長が毎年変わる。地域課題の解決に向けて、勉強会などのテーマを設けてやろうとしても、自治会長が1年で変わってしまうため、

次の自治会長にその内容が伝わらないのが現状である。

自治会長の知識レベルにも差が生じてしまっているので、市内全域の自治会長を全て集めて、自治会はどうあるべきかということを中心に勉強する会を実施する予定である。

私の地域の自治会員は500人、班長を8人設けている。班長が1年置きに変わってしまう。班長の方は、自分が班長のときだけうまくいけばよいという考えを持っている人が多い。

委員：地域の活動は地域によってかなり差があると思う。

関町の木崎では、高齢者が多く、それを逆手にとって高齢者が多い1位の地域として、高齢者の健康寿命増進に向けて、世代を超えて活動を行っている。

地域包括ケアシステムについては、まだ自治体もその内容や体制について腹に落ちていないのかなと思う。

私の住む地域で聞いた話であるが、若い世代が引っ越してきて、共働きであるため、安心・安全に子どもを遊ばせることのできる場所がほしいということ聞いた。まちづくり基本条例推進委員会では、若い世代に関係するテーマについても議論していきたい。

委員：民生委員を務めているが、民生委員も担い手がいない。民生委員は75歳定年制であるが、民生委員の成り手がいないので自治会長が兼務している場合や75歳以上の方がなっている場合もある。

商店街の中には順番に自治会長をしているところがある。担い手の確保については大きな課題である。防災、空き家、子供の予防接種や遊び場など多くの問題を抱えている。これまでは、定年を迎える60歳くらいで地域の活動を行うような流れになっていたが、今では60歳でも働いている人が多く、地域の活動になかなか参加してもらえない状況である。

会長：子どもに関わることをきっかけにして、若い世代を担い手にしていくという方法もあるかと思う。まちづくり協議会の活動に多く関わってもらおうとよいと思う。子どもの健全育成やコミュニティスクールの話もあり、PTAとして共有できる部分も多い。

また、まちづくり協議会としての学校への支援体制も必要がある。学習支援や総合型スポーツクラブでの地域との連携の仕組みがあればよいと思う。

事務局：教職員の労働環境と部活動の充実については、地域に関わってもらうことにより、先生の負担を減らしながら、テクニカルな指導もできるのではないかと思う。

委員：地域が関わっているが、コミュニティスクールの事でも他の事でも使用できるお金がない。何をやるにもボランティアになっており、誰かの善意に頼っている。有償にしないと続いていけないと思う。

委員：企業でも副業が可能な時代になってきているので切り替えていけないかと思う。

委員：三重県は菓子博やインターハイ、国体があり、財政がひっ迫している。国からの補助金も三重県はあまり獲得できていない。

昔であれば、ボランティアは無償でよかったが、交通費や食事代が出るのは当たり前

前になってきている。ボランティアの仕組みを変えないといけないと思う。

会長：有償ボランティアやコミュニティスクールについて考えてほしいと思う。また、子どもの育成についても今後の検討では大事であると思う。

委員：まちづくり協議会のことについては、まちづくり計画がきちんできているか、事業計画が全部できているかが重要である。具体的に今年は何をやるのか、検証して次に引き継ぐような議案書にしていけないといけないと思う。

「何もしなくても済んでいく」「誰かがしてくれるだろう」という気持ちでは、1年2年は済んでいくがそれでは発展がない。

会長：まちづくり計画がきちんとしていることによって、使い道もしっかり決まると思うので、重要であると思う。

委員：交付金を貰うためにということだけで、まちづくり計画を策定しているまちづくり協議会もあるのではないか。

委員：まちづくり協議会がどういう役割で設立されているのか。自治会とコミュニティとは両輪だと言われているが、まちづくり協議会で包含できているのではないのか。時代の流れからすると1つにすることもできるのではないか。

定年退職しないと地域の活動に参加するのは難しい。地域の役員は輪番制が多いので、自治会の会合でもまちづくり協議会の会合でも、会合に出ること自体が難しい。

昼生や野村、関などの地域はまとまっている印象がある。街中の地域であると人間関係が希薄である。地域によって差があるので、すべての地域で同じことをするのは無理であると思う。

亀山市をどういう風にしていきたいかが大事であると思う。三重県も亀山市もお金がない。高齢者の比率は増えていく一方であり、空き家や移住の問題についても問題が多い。

また、すべての情報はホームページでしか発信していない。そこへアクセスしないと見ないので、情報の発信をいかにたくさん出してあげられるかも重要であると思う。

会長：広報のあり方も重要なテーマであると思う。

委員：後継者不足は大きな問題であると思う。自治会長になってくれる人を探している中で、いいなと思う人がいるが、その人に声をかけたら、「今、自治会長を引き受けたら、ずっと僕やらないといけない」と言われた。担い手の問題はあるが、誰でもよいわけではない。年齢のことや、向き不向きもあると思う。防災などは大きな地域であるまちづくり協議会だけではうまく回らない。細かく自治会があることによりうまく機能すると思うが、後継者の問題がある。また、地域の活動の中で、若い人は高齢の方に口を出せないというように感じ、遠慮しているようである。

子どもの支援についても重要なテーマであると思う。女性が働き手として求められている中で、保育園や学童保育は非常に重要な役割を果たしている。その機能が十分に果たせるような仕組みが必要であると思う。

会長：女性の就労支援もどのようにしていくかを考えていくことも重要であると思う。

## (2) 条例 PR シンポジウムについて

事務局：資料5を説明

(説明要旨)

シンポジウム案について

委員：シンポジウムにはどの層を中心に来てもらうか。

委員：食の祭典など他のイベントと一緒にすることもよいのではないか。

委員：みそ焼きうどんなどの飲食系イベントと一緒にするのもよいと思う。

会長：開催時期は1年後の秋頃のイメージでよいか。

事務局：そうである。

具体的な内容や周知方法等については次回以降に議論を進めさせていただく。

## 7. その他

次回の推進委員会については、来年1月中下旬くらいに開催予定とする。

日程調整を行い、開催の案内をする。